

## 令和6年度合志市歯科保健連絡協議会（議事録）

日時 令和6年8月21日（水）13：30～15：00

場所 ヴィーブル会議室

出席者 佐藤歯科医師、南川歯科医師

三隅歯科医師

野村養護教諭（南ヶ丘小学校）

山下養護教諭（合志楓の森小学校）

古賀園長（市認可保育園連盟会）

瀬上歯科衛生士

楠田保健予防課長（菊池保健所）

上田歯科衛生士（菊池保健所）

佐々木主事（学校教育課）

溝口主査（健康ほけん課）

有田主事（健康ほけん課）

事務局 西本課長（こども家庭課）、小畑課長補佐

溝部主幹、堀

欠席者 竹内歯科医師、那須歯科医師

### 1 開 会

### 2 挨拶

こども家庭課長挨拶

### 3 委員紹介

（各委員・事務局より自己紹介。）

### 4 議 題

(1)令和5年度歯科保健事業実績報告

(2)令和6年度（2024年度）歯科保健事業実施状況について

(3)小中学校フッ化物洗口実施状況について

(4)令和7年度歯科保健事業実施計画について

### 5 意見交換

委員 学校での歯科保健事業について、養護教諭の立場から少しお話していただければと思います。

委員 なかなかコロナ禍で学校での歯磨きの取組ができてない。そのため最近は学校で学んだことを家庭で実践してもらおうと、一昨年からははっぴい貯金を始めている。

令和 4 年度からはクラスではっぴい貯金通帳をやっている。これは朝から歯磨きをしてきた人、学校に歯磨きセットを持ってきた人数がポイントになっているもので、200 ポイント集めたら保健委員会からシールがもらえる。低学年は頑張ってくれている。

夏休みの取り組みで、歯科受診をしてくれない課題があった。今までは歯磨きカレンダーをしていたが色塗りイベントで終わってしまう。そのため 1 日目は保護者の方と一緒に歯磨きをする、2 日目はこどもと保護者で順番磨きを行い、その後こどもの口の中を見てもらい、仕上げ磨きで歯垢が残っているところを話ながらするといったファミリー歯磨きを一昨年からはじめた。すると小学校に入って初めて口の中をみましました、仕上げ磨きで久しぶり膝枕をしましたとのご家庭の声が結構あった。これは今でも続けている。

夏休みが終わったらいよいよ本格的に学校で歯磨きを始めようと思っていて、みんなで歯ブラシを持ってきて歯磨きフェスをしようと思っている。最近のこどもたちはフェスや推しという言葉に興味があるので、そういう取り組みをしようと思う。

事務局 保育園幼稚園の 9 園でまだフッ化物洗口で実施できていない状況がある。現場の人材不足や現状をお伺いしたい。

委員 自園では開園 3 年目から実施している。最初は、どうやって保護者に説明するかというのが課題で、他の職員はしたことがなかったため市役所からの資料を保護者に配布していた。今のところ年長しかしていないが、始める前に歯科の先生や歯科衛生士が来られて説明されてとてもよかった。各園でもフッ素に抵抗がある方もいらっしゃる。できたら園長会に一度きていただいて、園長先生たちがしっかり理解すればすすむんじゃないかと思う。  
私はフッ素に抵抗はないが、いつするのか、どこに保管するのか、などいろんな不安があられる先生がいる。そこで、している園からしていない園に、こんな感じでしていますよと説明を受けたら、フッ化物洗口を始めやすいと思う。

事務局 担当していた平成 23.24 年度頃から園医の先生と歯科衛生士の先生とバックアップ体制を確保したところで説明に伺っていた。今後はフッ化物洗口の有効性や手順を担当と園をまわって説明をしていきたい。

委員 園をまわるのよりも、園長会が月に 1 回あるのでそちらにきていただいた方がいいんじゃないか。園長先生が理解しようとなれば、フッ化物洗口はできるんじゃないかと思う。

事務局 この会議自体が令和元年を最後になっていて、コロナ流行期間が実施できていない。実施できなかったコロナ禍の小中学校でのフッ化物洗口の状況、今の現状をご教示いただきたい。

委員 コロナ禍は各校の判断によっていたが、その後からは間は開けずに一斉に継続して実施できている状況です。平成 27 年度開始した当初は、学校も業務がこれ以上増えると大変とのご意見があったが、何度も話し合いを行い、実際にやってみると意外とかまえていたよりも大変じゃな

いかかもしれないとの意見が出てきた。

私たちがフッ化物洗口の時間を変えるなどは学校との話し合いを重ねてきた。まずは一度やってみるとよいかかもしれない。

委員 令和 4 年度に開校し、開校当初からやってきた。どのように実施していくかを校内で話し合いを進めてやってきた。合志市に住んでいる職員だけでなく、他地域からきている職員への説明を事業開始の当初は確か市の方からきていただいてやり方等の研修を受けていた。新しく来た職員には私たちの方で職員をフォローしながらやっている。慣れてはきたけど負担が増えたことには変わりはない。現在はやり方等は教育委員会からのご協力を受けながらやっている。

事務局 学校教育課の説明でありましたように12歳の有病率が令和3年度からぐっと下がっている。対象のこどもたちは違うが、これをフッ化物洗口の効果としてよいものか。フッ化物洗口を始めて10年程度経つがこどものお口の状況はどうか。学校での歯科健診後のむし歯がある児童への受診勧奨通知は減っているか。

委員 受診勧奨の通知は減ってはいる。それがフッ化物洗口の影響かはわからない。ただ先程も話したが、かなり二極化している。歯の根元しか残っていないおこさんもいる。でもそのおこさんもフッ化物をしている。それがフッ化物なのか、その親世代も歯磨きをしようとしてきた親世代だからというのがあるのかは分からない。

確かに小学校1年生のむし歯は少ない。本校の場合ではありますが2年生、3年生と学年が上がるにつれ増え、5年生は乳歯が抜けて減っている。これは毎年感じている。小学校に入ったから仕上げ磨きをしないでよい、学校でフッ化物をしているから安心と思っているご家庭が多いのではないかと感じている。だから歯医者さんにいなくてもいいのではないかと感じている。

事務局 乳幼児健診でたくさんむし歯を抱えるこどもたちがそのまま大きくなっていくのかなというところでホームケアだけでなく今後パブリックケア、プロフェッショナルケアで手助けが必要になるところだと思う。

(スライド11) オレンジ色が3歳児健診で令和に入ってから0.5%弱が仕上げ磨きをしていないと答えている。ただ1歳半の方が5.6%していませんと答えている。月齢でいくと1歳半の方が低くなるはずだが、逆転現象が起きている。

診療でおこさんを見られる中で、状況として良くなっているのか。こどもたちの様子でどんなことを感じられることがあるか。

委員 学校健診をしていて二極化していると感じている。幼稚園から小学校1.2年生までは仕上げ磨きはしているのでむし歯はない。ただやはり大きくなったら嫌がるのか、親も仕上げ磨きをしなくなっている。親が見なくなるとむし歯もでてきてしまう。

じゃあそれをいつまで仕上げ磨きをした方がいいのかというのは個人差がある。それを調べるの

は歯科医院で染め出して仕上げ磨きができているのかをみてから、歯医者で大丈夫ですよと声をかけることでこちらも判断できる。そういったことも歯医者にきてもらわないとアドバイスができない。

個人的な感想だが、きょうだいがいるとお兄ちゃんが大きくなると仕上げ磨きをしなくなっていて、その下の弟・妹の方が小さい時からむし歯があるような気がする。

仕上げ磨きをやめるタイミングが恐らくお兄ちゃん、お姉ちゃんと同じタイミングになっているのではないかと。そういったことも歯医者に兄弟できてもらっているからこちらも気づける。

受診を促してもらえないとアドバイスが出来ない。こちらも手が出せないところがある。

委員

うちにいらっしゃる患者様は他の地域から移り住んでいらっしゃる方が多い。お話を聞くと熊本に住んでいる方は何かないと歯医者に行かない人が多いとのことを話される。

例えばご家族でいらっしゃる方がいて、おじいちゃんは「何かないと歯医者いかないからな」と言われる。またそのご家族がいらっしゃった時に聞くと同じことを言われる。こういったことが代々伝わっているんじゃないかと思う。

逆に外からいらっしゃる方は何も無いんだけど、向こうで定期的に歯医者に行ってたから来ましたという方が多い。そういうのも地域性があるのではないかと。

今のお話を保育園小学校中学校で話を引っかけていくと、痛みがあったら歯医者に行くことになる。気が付く方は何か問題がなくても歯医者に行かれる。委員がおっしゃった二極化の問題があると思う。

委員

こちらでは仕上げ磨きをどれくらいされているか保護者さんに聞いている。または保護者さんに一緒に入ってもらって赤染めをみてもらっている。確かに健診等で言ってもらっていることは伝わっていて、仕上げ磨きをしている人は増えてきていると思う。フッ素洗口で効果が出ているのはデータでも分かった。歯科医院に行って口の中に関心を持ってもらうことが大事だと思う。ただ無償だからこどもだけであることもある。歯医者はむし歯じゃなくても歯肉炎や歯並びの問題もあるから、保護者にも関心をもってもらいたい。

最近むし歯が減ってきていて、代わりに歯周病や口腔機能低下の問題も出てきている。

今歯医者でしているのは口の周りの筋肉が弱った子にはお口のトレーニングを行なっている。歯並び問題もあるので出来るだけ早い時期から舌と唇を鍛えることを伝え、ある程度早ければちゃんとしたところに並ぶんだよということをお母さんに教えることが大事だと思う。

フッ化物洗口の効果や歯磨き粉のフッ素で虫歯は減ってきているが、それと対照的に歯肉炎や不正咬合が増えてきている。それをお母さんたちが気づいているかどうか。口の中に関心がなく、食べ物や時間、回数等が歯周病などの問題に影響していることが分かっていない。今では何もなくても通い続けられる保険制度になりつつある。私も歯に影響が出てくる前に救いたいという思いがある。

委員

平成23年度頃、保育園でのフッ化物洗口を始めるときに歯垢があってもフッ素はしみ込んでいくのでフッ化物洗口は非常に有効です、との話が説明会であったと思うが確認をしたい。

事務局 毎年市のマニュアルにそって県からの指導を受けながら実施体制を整えておこなっている。保健予防課長がいらっしゃっているのでそのあたりが分かれば教えていただきたい。

オブザーバー そのような効果があると思う。ピカピカの口じゃなくても効果がないわけではない。だからと言って歯磨きをしないでよいわけではない。歯垢が付着していても効果がないことではない。今日の資料をみて非常にいいデータが出てきていると拝見して思った。この10年間で半減くらいしている。新潟県がフッ化物洗口を始めてからの10年間で半減したデータに近い数字がでていいる。ただ1割の方はしていないので、そこをどうみていくか検証されるとよいと思う。

令和5年度の3歳児むし歯平均本数が0.36本で、全国1位の新潟県が0.2程度、県が0.78付近で全国でも後ろの方をいっているが、コロナ禍でもみなさんのご協力の中で継続して実施されていた結果がでていいると思う。

コロナ禍3~4年で実施していなかった市、町は実際に増えたところがある。これがフッ化物の効果であるかは検証しないとわからない。

このように確実な数字が出ていいるので先生方と市の方で頑張られた結果が出ていいると思う。むし歯が半分くらいあったのが今では2割切っている。それなりの効果が出ていいる。

またみなさんが言われました二極化の部分はやはり健康格差がある。

歯科口腔保健法が出来て国の指標も変わっている。健康格差もクローズアップされてきて、指標も3歳児で4本以上う歯のある歯を有する割合を出している。県も出しているということで合志市も計画を立てられると思うが、二極化の悪い方のこどもがどれだけいいるのか。

そしてそのこどもたちをケアするためにもパブリックケアが必要になる。家庭環境だけではどうしてもケアできないこどもを救っていかなければならない施策は何かというところで、全国的な課題となっている。

今日の資料をみて、フッ化物洗口を続けていくと効果が出ていいることは良く分かった。

事務局 コロナの流行によって受診控えがあったと思うが、今は患者さんは戻ってきたか。

委員 コロナがあって怖いからというので控えるお客様は最近あまりいいない。

ただコロナだったから受診にきていいないのか、コロナ禍で受診が途切れてこなくなってきたいいるのかはわからない人もいいる。

訪問診療の際に、コロナで控えていた人にコロナ禍が落ち着いたころにお電話した時には、「受診はまだいいです」と言われたので、人と会うのが嫌なのかそれとも単純にコロナで離れているのかわからない。コロナになって来ている人もいいるし、コロナ禍になって来ていいない人もいいるので、あまり実感はない。

委員 菊池管内のフッ化物洗口実施率の割合を作りましたが、今のところ合志市では保育園幼稚園でのフッ化物洗口の実施率が他の市町に比べると低くなっている。

合志市では9園でやっていないとのことで、それがもし実施していただけたら実施率が上がると思う。園長会だったり、園をまわったりと話がありましたが、それで実施率が上がってけばよいと思う。

## 6 その他

事務局 来年度の開催時期を8~9月頃考えております。

## 7 閉会